

平成 30 年 第 13 回飯坂総合文化祭報告

——大滝集落「駄賃付馬子唄」を明治期栗子新道画図で馬子唄紀行として紹介——

大滝会理事 伊藤弘治

大滝会理事 鹿摩貞男

(特別会員)

はじめに

〈第 13 回飯坂総合文化祭〉

日時 平成 30 年 10 月 20 日 (土) 9:30~10 月 21 日 (日) 15:00

場所 福島市飯坂学習センター

(〔文化祭写真-1①②〕)



〔文化祭写真-1①〕 飯坂総合文化祭会場(飯坂支所
飯坂学習センター)



〔文化祭写真-1②〕 飯坂総合文化祭会場

昨年度に引き続き今年度も大滝会は飯坂総合文化祭 (&子どもまつり) に出展しました。今年
は、次のようなコンセプトで展示しています。

- (1) 荷馬車輓き(荷馬車運送業)が三代続いた大滝・蒲倉家のご出身奥野ミサオさんの作詞に
よる「駄賃付馬子唄」を紹介。
- (2) この馬子唄は、当時の馬方風情と万世大路の様子を巧みに表現して伝えているので、写真
によりそれらを確認していきます。また、関連する万世大路の写真も併せて紹介する。
- (3) 馬子唄紀行、馬子唄の道中を明治時代の絵師濱崎木麟の版画「栗子新道画図」(明治 14
年 9 月)を使って追うこととします。

第 1. 今年度の文化祭

今年度の文化祭は、例年 11 月中旬に実施されていたものを大幅に前倒しされています。また、
開会式は例年外で実施していましたが今年は室内(多目的ホール)でおこなわれ、舞踊・ダンス・
カラオケ・コーラス等のステージ発表は初日に実施されています(〔文化祭写真-1③~⑤〕、〔文化
祭写真-2①〕プログラム参照)。



〔文化祭写真-1③〕 開会式(1) 多目的ホール



〔文化祭写真-1④〕 開会式(2) 大滝会の皆さん



〔文化祭写真-1⑤〕 開会式(3) 飯坂太鼓

第13回

抽選
番号

0188

飯坂総合文化祭&子どもまつり

〇と き 平成30年10月20日(土)、21日(日)
午前9時30分～午後4時(21日は午後3時まで)

会場	10月20日(土)	10月21日(日)
1階	学習発表会 ※ステージ発表は 10:15～です	子どもまつり 終日：工作・体験コーナ 午前：昔遊びコーナ 午後：ユース・コーナ
	健康チェックコーナー	
	作品展示・茶の湯コーナー 模擬店コーナー (フランクフルト・玉こんに・煮たまご・駄菓子) 喫茶コーナー・クイズコーナー	
2階	作品展示	
	工作コーナー	おはなしひろば ブチスペシャル
屋外	模擬店コーナー (焼きそば・カレー・煮たまご・野菜販売)	
	パークゴルフ体験	

★おたのしみ抽選会

20日(土) 午後2時40分～ 多目的ホール

21日(日) 午後2時40分～ 事務室前

抽選で各日10名の方に粗品を差し上げます。

当選番号は、事務室前に掲示します。

商品の引換は、当選日翌日の正午までをお願いします。

それ以降は無効とさせていただきますのでご了承ください。

主 催 飯坂総合文化祭&子どもまつり実行委員会

共 催 福島市飯坂学習センター

〔文化祭写真-2 ①〕 文化祭プログラム

さて、今年の大滝会展示「万世大路・馬子唄紀行」についても木村義吉会長、高野英治・柁木新吉両副会長をはじめ役員の皆様が資料の収集や展示パネル等の作成をおこなっております。皆様のご努力に敬意を表します。〔文化祭写真-2②〕

作品展示

作品名	作者名	作品名	作者名
①飯坂町史跡保存会 飯坂大火の歴史（写真、年表） 勤業と対策		②大 滝 会 万世大路と大滝集落の写真 本村 康 彦 会員の皆さん	
③如 月 書 道 会 初心者から師範までの毎月の学習発表		④飯 坂 野 草 会 野草の普及と会員の絆をほめる 豊・秋の野草展覧会、野草パーティーなど	
半切から小品まで4点	渡辺 彰博	山野草	佐藤 康 英
半切から小品まで4点	齊藤 史 隆	山野草	奥野 善 昭
半切から小品まで4点	佐藤 安 雪	山野草	小野 新 二
半切から小品まで4点	阿部 貞 晴	山野草	斎藤 寛 子
半切から小品まで4点	松田 秀 任	山野草	穴戸 一 郎
半切から小品まで4点	丹治 如 月	山野草	手塚ハツ子
半切から小品まで3点	佐藤 光 正	山野草	須山 美 子

〔文化祭写真-2②〕 プログラム(大滝会・飯坂史跡保存会展示内容)

会場では、多くの方々が熱心に見学され、各種の質問があり役員の皆様が丁寧に説明しております。見学者の中には、馬子唄作詞者・奥野ミサオ様の民謡仲間、昭和 37 年から 4 年間福島市内から自転車者で大滝集落まで集金に通ったという方もおられました。また、馬子唄に興味があるという方も何人かおられ、ある人からはこれには何らかの節が付いているはずなので教えて欲しいと言われ困ってしまう場面もありました（「駄賃付馬子唄」に節は付いておりません）。

また、伊藤理事がパソコンで大滝集落の動画を流し多くの方が興味を持たれ眺めておられました。

以下前日の準備状況や当日の様様（写真）を紹介します。

〔〔文化祭写真-3①②〕、〔文化祭写真-4①~10⑥〕〕



〔文化祭写真-3①〕 大滝会、展示準備作業。



〔文化祭写真-3②〕展示作業終了、記念写真



〔文化祭写真-4①〕 大滝会展示全景
(二階から望む)



〔文化祭写真-4②〕 大滝会 展示全景



〔文化祭写真-5①〕 大滝会展示「万世大路・馬子唄紀行」



〔文化祭写真-5②〕 展示資料(1)「万世大路と大滝集落」解説



〔文化祭写真-5③〕 展示資料(2) 「駄賃付馬子唄」全歌詞(写真番号)



〔文化祭写真-6①〕 展示写真(1)



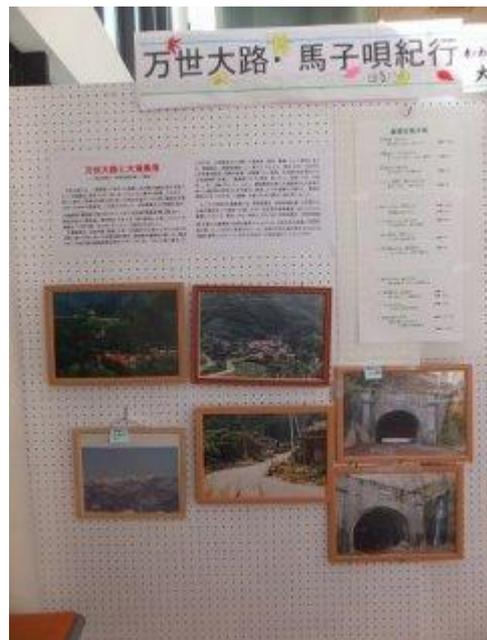
〔文化祭写真-6②〕 展示写真(2)



〔文化祭写真-6③〕 展示写真(3)



〔文化祭写真-7①〕 参考揭示写真(1)
左側下の部分



〔文化祭写真-7②〕 参考揭示写真(2)



〔文化祭写真-8①〕 展示資料
栗子新道画図
(濱崎木麟)。部分画図



〔文化祭写真-8②〕 展示資料
栗子新道画図
(濱崎木麟)。部分画図



〔文化祭写真-9〕 飯坂史跡保存会展示
「飯坂大火の歴史」



〔文化祭写真-10①〕 観客状況(1) 左側大滝会、
右側飯坂町史跡保存会ブース



〔文化祭写真-10②〕 観客状況(2)



〔文化祭写真-10③〕 観客状況(3)



〔文化祭写真－10④〕 観客状況(4)



〔文化祭写真－10⑤〕 観客状況(5)



〔文化祭写真－10⑥〕 観客状況(6)

第2. 当日の写真等展示資料

当日展示した写真・資料等について報告する。

1. 全体解説文「万世大路と大滝集落」、「駄賃付馬子唄」(写真番号付き)について

万世大路と大滝集落との関わりについて、また荷馬車轆き(荷馬車運送業)の紹介と「駄賃付馬子唄」作詞の経緯について簡単に紹介し、「駄賃付馬子唄」(写真番号付き、当該写真は次項に示す【写真－1①～12②】全文を掲示した。(別添資料－1)。

なお、歌詞の注釈については、当日の配付資料「駄賃付馬子唄と解説」(別添資料－2)を参照してください。

(〔文化祭写真－5①～③〕参照)

2. 展示写真等

(1) 馬子唄歌詞に関連する写真を説明付きで展示した【写真－1①～12②】。

前記(別添資料－1)の「駄賃付き馬子唄」の歌詞には、前述の通り関連する当該写真番号が付してある。また歌詞に詠われている場所は、展示した「栗子新道画図部分図」(後掲)の中にある当該写真番号(青色)の記載位置である。

(〔文化祭写真－6①～③〕参照)



【写真-1①】 旧万世大路起点(里程元標)の交差点を望む。大原総合病院新棟前。右復元された明治里程元標と再移設された大正道路元標(H30.3.26 除幕式)。当初設置場所:福島町通十一丁目(現福島市上町)、復元後:福島市大町



【写真-1②】 昭和8年頃の旧万世大路スズラン通り(現パセオ通り)。昭和6年我が国最初の国(内務省)直轄道路工事の一つ、特殊なコンクリート舗装を実施、表面が石面(石たたみ)のように見えた。左側旧福ビル(現まちなか広場)。



【写真-2】 明治期建設の初代万世大路を行く荷馬車軌き(昭和8年頃)



【写真-3】 成出の分岐点。左側万世大路(旧国道5号・13号、現県道折戸笹谷線)、ここから上り坂に。右飯坂街道(県道福島飯坂線)。



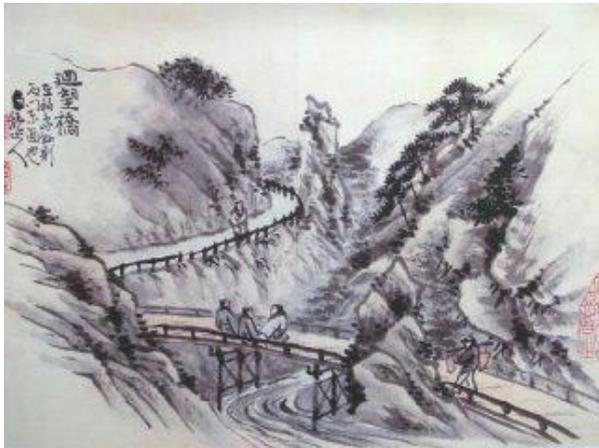
【写真-4】 堰場・堰坂地区を福島側から望む。この手前が中野不動尊前のヘアピンカーブ急坂、馬に鞭打つところ。



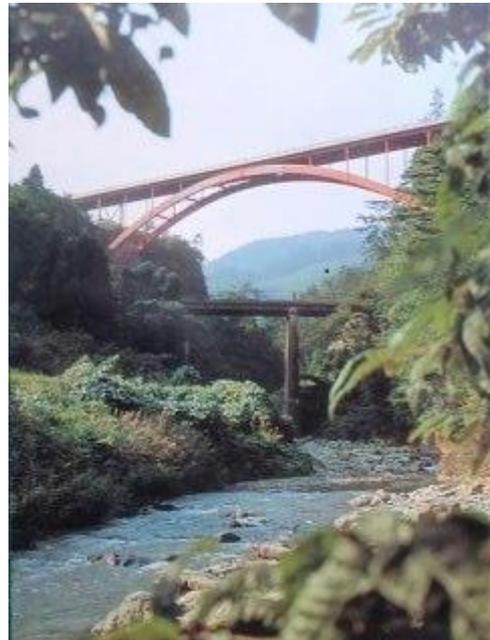
【写真-5①】 明治 14 年 7 月高平隧道(素掘り、L=140.3m)福島側坑口。明治・大正の荷馬車輓きが暗いトンネルを松明かざして通る。
菅原白龍画、福島県立図書館所蔵。



【写真-5②】 昭和 5 年に改修された高平隧道(コンクリート巻立、L=132.45m)。昭和の荷馬車輓きが松明かざして通る。昭和 8 年頃。



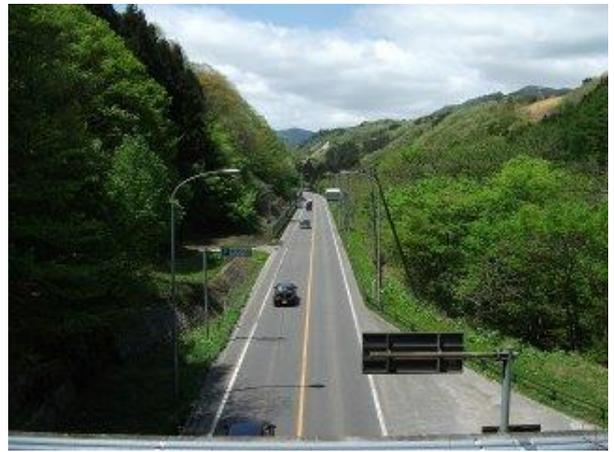
【写真-6①】 初代の山神橋(廻望橋、L=43.6m)、風光明媚。
明治・大正の荷馬車輓きが通った。
明治 14 年までに完成。
菅原白龍画、福島県立図書館所蔵。



【写真-6②】 写真中央奥、旧国道3代目山神橋(I型鋼桁、L=38.0m、昭和 3 年完)。昭和の荷車輓きが通った。
上、現国道 13 号4代目山神橋(鋼アーチ橋、L=106.6 m、昭和 38 年完)。
「栗子国道開通記念絵葉書」より



【写真-7】 「大桁がんげ(急崖)」箇所旧国道13号跡、現在旧国道は約100mにわたって崩落。電柱箇所が残存旧道。平成16年4月(郡山市 dark-RXさん撮影提供)。



【写真-8】 中野第2トンネル米沢側坑口から旧大滝集落方向を望む。写真右側に旅人の目印の一軒家「佐藤万太郎」家があった。同手前に旧国道が取付いている。奥右側は旧大滝ドライブイン。平成24年5月。



【写真-9】 小川に架かる旧葭沢橋。大滝集落の入口葭沢地区。「吉田まんじゅ屋」さんは、この手前100mほどの所にあった。平成27年4月。



【写真-10①】 大滝集落の大滝地区、手前旧大滝橋。赤岩道から米沢側を望む。写真右下が曲り角を曲った所。バスの先右側が荷馬車轆き蒲倉家宅。昭和40年頃(栗子ハイウェイ開通(S41.5.29)前)。大滝会 榎木新吉さん提供。



【写真-10②】 現在の大滝集落大滝地区、手前旧大滝橋。赤岩道から米沢側を望む。除染後。平成28年4月。



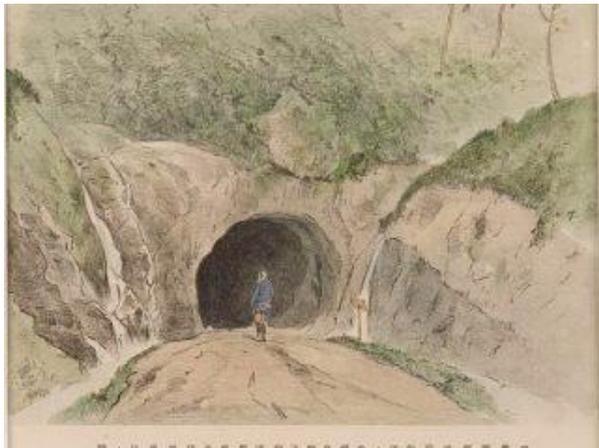
【写真-11①】 大滝集落最奥の長老沢(胡桃平)地区。写真右奥の家屋は、明治天皇ご小休所(M14.10.3)の旧中屋旅館(記念碑鳳駕駐蹕之蹟)。荷馬車轆きはこの前を通って大平へ向かった。平成28年5月。



【写真-11②】 大平峠福島側通称「八丁」(旧大平七曲)の上り坂。峠(手前)を越えると大平集落。昭和11年10月撮影。



【写真-11③】 馬子唄終点の大平集落(昭和9年頃、昭和7年に廃村)。物資輸送の中継地点として明治時代に栄える。当時内務省は、残存廃屋を補修して栗子隧道工事の出張所、作業員宿舎として借り上げた。



【写真-12①】 明治時代の栗子隧道(L=876.3m、明治14年完)福島側坑口。荷馬車は隧道を抜けて米沢へ向かった。高橋由一画、山形県立図書館所蔵。



【写真-12②】 現在の栗子隧道(L=870m、昭和11年完)福島側坑口。大滝会と万世大路守る会の皆さん、平成29年11月。柁木新吉さん提供。

2) 参考掲示写真について

万世大路に関連する写真を参考として掲示した。

本稿においては当該写真に説明文を付しているが、当日の実際の掲示写真には説明文は付しておらず、見学者へは口頭で説明をおこなっている。(参考掲示-1①~3③)

(〔文化祭写真-7①②〕参照)

(大滝会副会長柁木新吉さん提供、一部鹿摩)



参考掲示-1① 栗子隧道福島側坑口 H291105



参考掲示-1② 栗子隧道中央部、崩落箇所。
矢内靖史様提供 H280626



参考掲示-1③ 信夫山烏ヶ崎から望む栗子連山
sunnypandasama 様提供
H240304 撮



参考掲示-2① ニツ小屋隧道福島側坑口
H291105



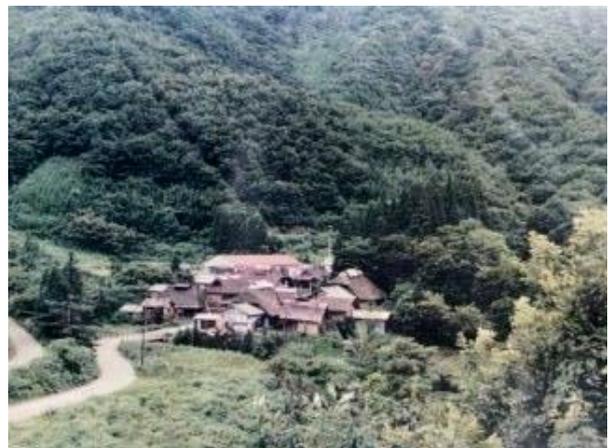
参考掲示-2② ニツ小屋隧道米沢側坑口
H291105



参考掲示-2③ ニツ小屋隧道中間部の
巨大氷柱、米沢側から望む。
H300123



参考掲示-3① 大滝集落、昭和 51 年頃。
写真下は大滝地区、
手前下は大滝分校。
上は胡桃平(長老沢)地区。
その上、現国道 13 号
(左西川橋)



参考掲示-3② 大滝集落(大滝地区)、
昭和 50 年代。
右側道路は旧国道 13 号、
左側赤岩道。
奥の建物(赤い屋根)は
大滝分校。

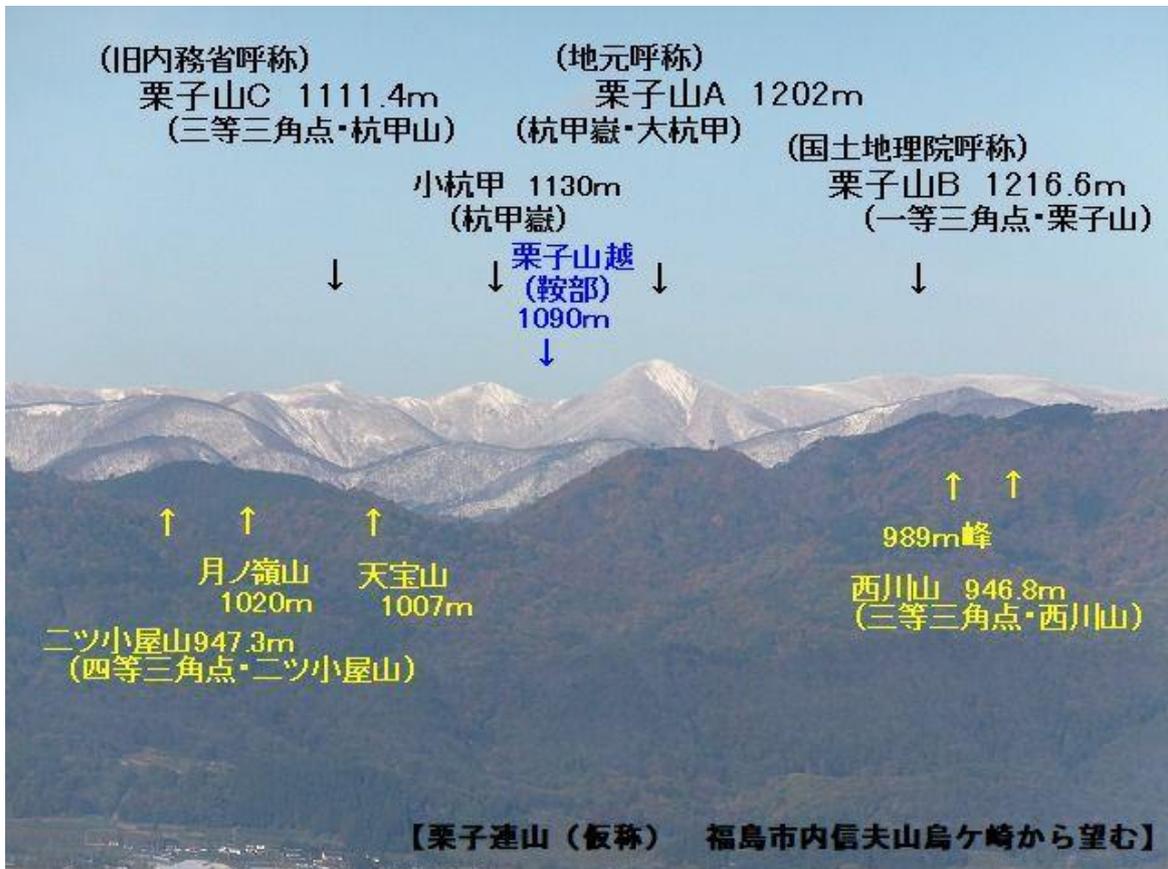


参考掲示-3③ 旧国道 13 号、旧大滝橋。
昭和 50 年代。

(3) 説明用手持写真について

展示資料を説明する際に用いた手持ち写真資料で、必要により見学者へ提示して説明した。

(手持写真-1①~10③)



[手持写真-1①] 福島市内信夫山烏ヶ崎から望む栗子連山。H251114



[手持写真-1②] 栗子連山を米沢市内・花沢跨線橋から望む。H280419



[手持写真-2①] 馬子唄歌詞 5 番関連。
旧高平隧道福島側坑口跡
付近と思われる。
写真-5②参照。
H240506



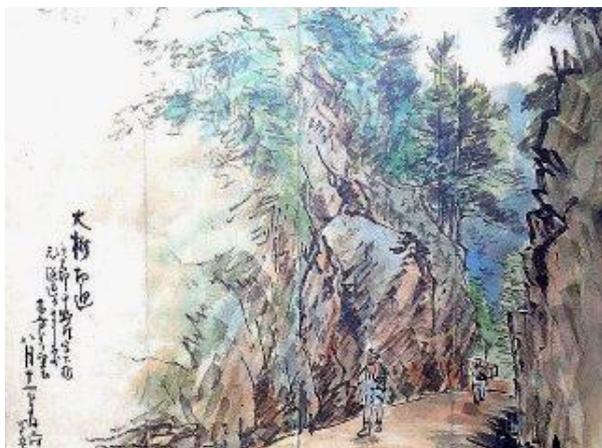
[手持写真-2②] 馬子唄歌詞 5・6 番関連。
現国道 13 号の 4 代目山神橋
(赤いアーチ橋)を望む。
真下が小川の流れ、旧橋遺構
あり。H280406



[手持写真-3①] 馬子唄歌詞 7 番関連。
旧国道 13 号(5号)の長い
上り坂、山神橋～大桁の
中間付近(出来沼)。
米沢側を望む。H240506



[手持写真-3②] 馬子唄歌詞 7 番関連。
大桁がんげ(急崖)手前の
大桁隧道跡の掘割(切通)。
米沢側を望む。H160417。
dark-Rx 様提供。



[手持写真-3③] 馬子唄歌詞 7 番関連。
大桁隧道跡。堀江繁太郎
(福島中学校(現福高)
美術教師)画 S7.8.11。
福島県立図書館所蔵



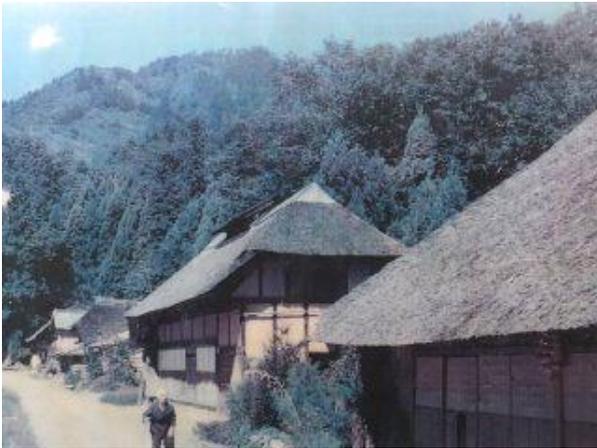
[手持写真-4] 馬子唄歌詞 8 番関連。
写真中央、福寿草山跡。
左側国道から大滝集落への
進入路(旧 13 号)。
手前右側、旧原石山跡。
H250503



[手持写真-5] 馬子唄歌詞 9 番関連。
旧国道 13 号から吉田まんじゅ
屋さん跡を望む(建物付近)。
その背後が小川で大滝鉦山
跡。 H290428



[手持写真-6] 馬子唄歌詞 10 番関連。
曲がり角から見た大滝地区、
手前大滝橋、左側榎木新松
(新吉)さん旧宅。
堀江繁太郎画 S7.8.11。
福島県立図書館所蔵



[手持写真-7①] 大滝集落・
胡桃平地区(渡辺清治家、
渡辺正義家、高野英治家)
個人蔵(出典不詳)



[手持写真-7②] 明治天皇御巡幸 M14.10.3
大滝御小休所(旧中屋旅館)。
左側鳳駕駐蹕之蹟(M41.9.12
建立)、右側、史蹟指定記念碑。
H270429



[手持写真-8①] ニツ小屋隧道福島側坑口。
H271122



[手持写真-8②] ニツ小屋隧道中間部巨大
氷柱、福島側から望む。
H300123



[手持写真-9①] 旧栗子隧道福島側坑口
H291105



[手持写真-9②] 旧栗子隧道(L=870m)県境
(福島県側 L=453m、
山形県側 L=417m)。
H280626



[手持写真-9③] 栗子隧道米沢側坑口。
右側初代:明治14年(1881年
9月完成)。
左側2代目:昭和11年
(1936年)8月完成
H251101



[手持写真-10①] 東北中央自動車道(E13)
新栗子トンネル(L=8,972m)
福島側坑口。
右は避難用トンネル。
手前、新西川橋(L=77m)
H291027



[手持写真-10②] 新栗子トンネル(L=8,972m)
山形・福島県境、福島県側を
望む。
(福島県分 L=5417m、
山形県分 L=3555m)
H291027



[手持写真-10③] 新栗子トンネル(L=8,972m)
米沢側坑口。
左は避難用トンネル。
H291027

3. 「栗子新道画図」について

明治時代の絵師濱崎木麟（*）の版画「栗子新道画図」（明治14年9月）を展示（部分図）した。当該版画は、荷馬車輓が活躍した時代（明治～昭和初期）の万世大路が良く描かれており、馬子唄に詠われている場所が分かる。

この馬子唄は、万世大路の起点（福島市上町・里程元標 **写真-1①参照**）付近の旧すずらん通り（現パセオ470（通称パセオ通り））から大滝集落までのその道中を詠み込んでおり、大平まで行くことを示唆して終わっている。

途中大滝から先は、新沢橋を渡り「大廻」^{おおまわり}「七曲」^{ななまがり}といった峻険な山岳道路を進み、二ツ小屋隧道を通過して難関の大平峠を越えて大平集落に至る。大平は、米沢との中継地点になっていて、福島からの荷馬車はここで引き返す事が多かったのかも知れない。

さて、明治の絵師濱崎木麟（米沢）は、開通直前の栗子新道（のち万世大路）の各要所の特徴を捉え巧みに描いている（版画）。今回は、その画図に馬子唄をリンクさせたもので、前記の**写真-1①～写真-12②**がそれで、画図の中に当該写真箇所を青色（写真番号）で示した。馬子唄では、直接には大滝集落までとなっているが、画図としては栗子隧道まで示しておいた。

なお、版画原図では「栗子新道画圖」となっているが、本稿では「栗子新道画図」と新字体で表示する（引用等は除く）。

（*）【濱崎木麟（はまざきもくりん）について】

明治期に米沢で活躍した四条派の絵師、本名八百寿。天保14年（1843年）上杉藩士の子として米沢で生まれた。明治44年、69歳で米沢にて他界。

幼少のころから米沢で四条派の絵師に学び、長じて上洛し四条派の鈴木百年に師事した。明治2年には蝦夷地支配所の視察を命じられ、当地の地形や風俗を克明に写生したという。『米沢市史第4巻近代編』の見返しに用いられている「米沢市明細繪圖」（明治26年）等優れた作品を数多く残している。絵は花鳥・人物等を得意としたが、画業のほか詩・和歌・俳句・書・琴等にすぐれた風流人であり、茶道は裏千家の師匠でもあった。（『米沢市史 第4巻 近代編』（平成7年3月、米沢市編さん委員会）から整理した。）

四条派とは日本画の一派、京都四条に住んだ松村月溪（呉春）を祖とする。丸山派（注：円山応挙）の写実性に南画（注：与謝蕪村に代表される）の画風を加えた様式。（『大辞泉』）

（1）栗子新道画図部分図3枚を繋ぎ合わせて展示

栗子新道画図の部分図（**別添資料-3「栗子新道画図部分図1～3」**）を繋いだものを展示した。
（文化祭写真-8①②参照）

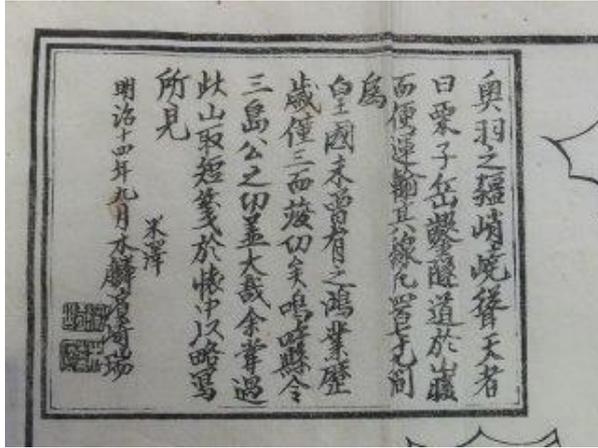
（2）「栗子新道画図」全体図（明治14年9月）及び後書（奥付）

会場には展示していないけれども、参考までに「栗子新道画図」全体図（明治14年9月）を示す（**別添資料-4「栗子新道画図 全体図」**）

この画図は、前述の通り明治の絵師濱崎木麟による版画である。この版画の「後書」にはその制作経緯について、下記のように記載されている（**参考写真-1**）。また、参考に「奥付」（**参考写真-2**）についても示した。自己流で甚だ恐縮であるが下記に読み下し文及び大意を示す。

なお、この版画は折本（**参考写真-3**）になっていて、版画左上の端にある文章は（**参考写真-1参照**）、通常の書物であれば「後書」に相当する文章であると思われるので、特にそのような

断り書きはされていないけれども「後書」とした。また、「奥付」も同様である。



参考写真-1 版画(折本)【栗子新道画図】後書
相当箇所 福島市資料展示室所蔵



参考写真-2 版画(折本)【栗子新道画図】奥付
相当箇所 福島市資料展示室所蔵



参考写真-3 版画(折本)【栗子新道画図】(畳んだ状態)
福島市資料展示室所蔵

【栗子新道画図 後書】

奥羽之疆峭峯聳天者
曰栗子岳鑿隧道於山腹
而便運輸其線凡四百七十九間
爲
皇國未曾有之鴻業歷
歲僅三而竣功矣嗚呼縣令
三島公之功蓋大哉余嘗過
此山取短箋於懷中以略寫
所見

米澤

明治十四年九月 木麟濱崎瑞

【参考 後書読み下し文(推定)】※

奥羽之疆、峭峯として天に聳える者
栗子岳と曰い山腹に隧道を鑿つ。
其の線凡そ四百七十九間爲、而して運輸便なる。

皇國未曾有の鴻業
僅か三歳を歴て竣功させたり。ああ縣令
三島公之功蓋し大なる哉。余、嘗て此山を過ぎ
懷中の短箋を取り以て所見したるを略寫す。

米澤

明治十四年九月 濱崎木麟 瑞

くずし字の解読は、ウェブサイト『木簡画像データベース・木簡字典』（奈良文化財研究所）
『電子くずし字字典データベース』（東京大学史料編纂所）による。

(※ 参考までに、筆者による読み下し文(もどき)的なものを示したけれども、もとより筆者は浅学にて古文・漢文の素養は皆無で、本来であれば皆様に披露できるような代物ではありません。今回敢えてお示したのは、学識のある諸賢にご教授賜りたいとの願いからなので、下記の「大意」を含めご指導を頂ければありがたく存じます。)

【大意】

陸奥国と出羽国の境に、高く険しい栗子山というものが天に聳^{そび}えているけれども、この山の山腹に^{すいどう}隧道を建設した。その延長は約 870mで、完成後は(米沢・福島間の)交通が大変便利になった。

日本国における未曾有のこの大事業は、僅か3年で成し遂げられたものである。事業を推進した山形県令三島通庸公の功績はなんと偉大なことか。

この絵図は、私(濱崎木麟)が開通前にこの新道を通り画帖にその状況をスケッチしてきたものである。(筆者拙訳)

【画図中の和歌について】

本画図(部分画図-3)の中には三島通庸県令の和歌が次のように表示され掲載されている(一部文字推測)。

「民の多免 つくすこ弧呂ハ みちのく能 山の穴道 ふみて古そ 志れ」

従五位 通庸

(筆者による説明用表記「民のためつくすところは みちのくの山の穴道(あなみち) ふみてこそしれ」部分画図-3 参照)

この和歌は、明治13年(1880年)10月19日、栗子隧道の貫通に立ち会った三島通庸山形県令が貫通を賀して詠んだ数首の中の一つである。

これについては、『三島文書』(**)の中に万葉仮名とひらがなで次のように記されているので参考までに下記に示す。

「太美能多女津具須己々 呂波美知能俱儂也末農阿那美知不美天古曾之禮」

(185頁「栗子山隧道始末記」)

「たみのためつくすところはみちのくのやまのあなみちふみてこそしれ」

(433頁「未定稿山形縣栗子工事」)

(**) 山形県編『山形県史資料篇二 明治初期下 三島文書』巖南堂書店 昭和37年7月10日

なお、汗顔の至りであるが、拙訳を下記に示す。

「民のためつくす心は陸奥^{みちのく}の 山の穴^{あな}隧^{みち}ふみてこそしれ」

【奥付】

定價 拾銭

御届 明治十四年九月三日(注:円環状書き、栗子新道開通明治14年10月3日)

画圖

濱崎木麟

山形縣南置賜郡清水町八番地(注:米沢清水町)

出版發兌人(注:發行人)

稲田重左衛門

同縣 同郡 長町貳番地

彫工

稲田堂伊六

(参考写真-2 参照)

(3) 当画図は福島市役所福島市資料展示室所蔵

当画図については、平成 30 年（2018 年）3 月 26 日（月）に開設された福島市大町歩道上の「道路元標スポット」（筆者による仮称）に「写し」が展示されていて何時でも見るできるのでお知らせしておきたい。新大原総合病院斜向かい（北西方向大町、メロンパン屋さん前）。

万世大路の起点でもあった福島市上町・旧粉又商店前の大正期道路元標が、大原総合病院の新築移転（平成 30 年 1 月 1 日、新病院開院）に伴い、市道（杉妻町・御山町線）向かいの大町側に移転されたものである。この機会に明治期^{りていげんびょう}里程元標（道路元標の前身）を復元設置、道路元標や万世大路の説明版をも併せて設置し道路元標スポットとして整備されたものである。一般社団法人東北地域づくり協会様御寄贈による万世大路の説明版に当画図が使用されている。

(参考写真-4①②、写真-1①参照)



参考写真-4① 道路元標スポット。
福島市上町から大町に移転された
道路元標（左側）と復元された
里程元標（木柱）、案内板。
H300326



参考写真-4② 万世大路案内板。
H300401

4. 当日の配付資料「駄賃付馬子唄と解説」について

「駄賃付馬子唄」については前述のように会場に掲示(別添資料-1、文化祭写真-5①~③参照)したけれどもその語句の意味や解説は付していない。そこで、興味のある向きには「駄賃付馬子唄と解説」(別添資料-2)を配付し説明しています。これは大変好評であった。

なお、解説注釈は、大滝会 HP 管理人紺野文英さんによるものである（一部筆者）。

おわりに

今回のテーマとして、現在は見ることのできない荷馬車軌き（荷馬車運送業）を紹介しました。大滝のこの荷馬車軌きは、戦後暫くの間もおこなわれていたようであるが（大滝会談）、自動車の普及と共に姿を消していったものと考えられる。具体的な仕事の内容等については紹介できませんでしたが、これについては『わが大滝の記録』を参照して頂きたいと思います。

『わが大滝の記録』（PDF版）

<https://ootaki.xsrv.jp/wagaootaki.pdf> (18頁)

荷馬車運送業もかつては地域社会を支える大切な産業であり、大滝集落の一部の方々の生業として生活を支えていたものであると思います。大滝集落の歴史の一コマとして語り継いでいくべきものと考えます。

今回も大滝会 HP 管理人紺野文英さんには編集構成を含めたいへんお世話になりました。ありがとうございます。

（文責・写真 鹿摩貞男）

—— [別添資料-1](#) へ ——

—— [別添資料-2](#) へ ——

—— [別添資料-3](#) へ ——

—— [別添資料-4](#) へ ——